

C
•
O
S
•
M
•
O
S
5

♪
編

照
伝
光

主な登場人物等		1
第一編（男と女）のあらまし		5
第二編（コンピュータ）のあらまし		7
第三編（アンドロイド）のあらすじ		9
第四編（誕生）あらすじ		11
第百十四章 戯言		13
第百十五章 結婚ゲーム		23
第百十六章 六次元の三次元村		49
第百十七章 ターミネーター		71
第百十八章 宇宙ミラー		91
第百十九章 忘れ物		103
第百二十章 変わり果てた地球		109
第百二十一章 バグの自動修正		109
第百二十二章 トリップル・テンの気持ち		107
第百二十三章 現場		103
第百二十四章 無言通信の活用		105
第百二十五章 居酒屋での戦略会議		107

第百二十六章	正多面立方体移動装置	3
第百二十七章	副首星陥落	3
第百二十八章	輝く巻物	3
第百二十九章	火の鳥	3
第百三十章	三太夫の真意	4
第百三十一章	ライトアーム	4
第百三十二章	レフトアーム	4
第百三十三章	フォルダー	5
第百三十四章	ブラックホール砲	5
第百三十五章	突入	5
第百三十六章	トネルを抜けると	6
第百三十七章	♪	6

主な登場人物等

主な登場人物等

ノロ

宇宙海賊船ブラックシャークやオルカを建造したり、地球と同じ惑星を造ろうとする気まぐれな天才。

イリ

ノロを支える姉のような存在。

フォルダー

ブラックシャークの船長。ノロの親友。

ホーリー、サーチ

男の軍隊と女の軍隊に別れて戦っていたところからの付き合いを経て結ばれる。ホーリーはノロとフォルダーの古き友人。

主な登場人物等

ミリン、ケンタ

ミリンはホーリーとサーチの娘。ケンタはミリンの夫。

住職、リンメイ

僧侶の住職と考古学者で医者とのリンメイはノロの相談相手。

R v 2 6

ノロが製造したアンドロイド。人間以上に人間的なアンドロイド。

百地三太夫

忍者の頭領。五次元の生命体に誘拐されて限界城を築城した。

四貫目、お松

百地一族の忍者。

ライトアーム、レフトアーム

三太夫の部下。

主な登場人物等

瞬示・真美

六次元の生命体。三次元の世界では瞬示と真美という男と女として行動するが六次元の世界では一体化するのでこう呼ぶ。同様にノロとイリも六次元化すると「ノロ・イリ」という名前になる。

広大・最長

五次元や七次元軍の攻撃から六次元の世界を守ろうと奔走する六次元の生命体。

首星総括大臣、副首星担当大臣 提督

六次元の生命体の最高責任者が総括大臣。その二番手が副首星担当大臣。提督は軍の最高指揮官

大總統、参謀長

五次元の生命体の最高責任者とその息子。

セブンヘブン

主な登場人物等

七次元軍の司令官

□ □ □ □ □
通常の会話を表す。

□ □ □ □ □
次元通信で行われる会話を表す。

□ □ □ □ □
一太郎が開発した人間同士のみで可能な通信を表す。

□ □ □ □ □
アンドロイドやコンピュータの間の会話を表す。

第一編（男と女）のあらまし

摩周湖で突然起こった出来事で瞬示と真美は時間島で西暦の世界から永久の世界に時空間移動した。そこは完成第十二コロニーという星で男と女の戦闘に巻き込まれるが、時間島に包まれて摩周湖から少し離れた海辺の民宿に時空間移動する。

完成第十二コロニーでは女の軍隊と男の軍隊の将軍が休戦してふたりの時空間移動の分析を始める。女の軍隊はサーチを、男の軍隊はホーリーを摩周湖に派遣した。

ふたりは民宿で生命永遠保持手術が開発されたことを知ったあと永久の世界の自分たちの家の近くの御陵で巨大土偶と戦う。戦闘でできた洞窟で時間が揺れる時震を体験する。その洞窟は巨大土偶の胎内で外に出るとそこは自分たちの西暦の世界の御陵だった。家に向かうが真美は玄関でもうひとりの真美に出会うと突然消える。瞬示は御陵から摩周湖の上空に移動して時間島の中で真美と再会する。眼下の摩周湖でふたりの過去が再現されて時間島によって因果の清算が行われたあと黄金城に移動する。城主の明智光秀が忍者を乗せた大風を時間島に向かわせるが呑みこまれる。

ふたりは民宿に戻ってケンタの車で摩周クレーターに向かう。そこでホーリーと再会するが、時間島に誘われるまま京都の古寺に時空間移動して黄金城から消えた忍者に出会うと月の生命

永遠保持機構でも忍者に遭遇する。一方ふたりを追いかけて古寺にホーリーとサーチが現れると続いて女の、更に男の追跡隊が現れる。瞬示達は時間島で前線第四コロニーに逃れるが、追跡隊の時空間移動装置がバリアーに体当たりを繰り返すので、時間島が第四コロニー全体を包み込んで月の近くに星ごと時空間移動する。

誰もいない月の生命永遠保持機構でサーチは女が起こしたクーデターの話をする。サーチは残されていたデータからリンメイが生体内生命永遠保持手術を開発したこと、その手術で生まれた胎児が遮光器土偶に変態したあと巨大土偶に成長して生命永遠保持センターを攻撃して壊滅させたこと、そしてミトの脱出作戦が成功して女たちが完成コロニーに逃れたことを知る。ホーリーとサーチは生命永遠保持手術の効果を失ったことを自覚する。

瞬示と真美がミトが戦った摩周クレーターで巨大土偶を発見するが溶けて消えたあとに時間島が現れる。男の軍隊と女の軍隊の戦うすべてのコロニーがある空間に時間島によって集められる。ふたりが「C・O・S・M・O・S」の意味を理解すると停戦を訴える。第四コロニーで停戦会議が開かれるが各コロニーの男と女は協力して負傷者の治療に当たっていた。

第二編（コンピュータ）のあらまし

月の生命永遠保持機構で死んだ胎児が摩周クレーターに向かった。そこでミトやホーリーたちが遮光器土偶と埴輪の鳥を発見するが時空間移動装置は緑の時間島に吸いこまれて宇宙戦艦も強制的に西暦の世界に時空間移動させられる。

無言通信システムを完成させた一太郎が摩周村診療所でこのシステムを狙う集団に襲われるが時空間移動装置が現れてミト達に救出される。しかし時空間移動装置は時間移動できなくなつて永久の世界に戻れなくなるが、西暦の世界に幼い瞬示と真美がいることが分かつてミト達は宇宙戦艦内で生命永遠保持手術に必要な設備を製造して手術を受ける。

瞬示と真美の緑の時間島が宇宙から御陵に到着する。ふたりが人間ではないことが判明したとき御陵に異変が起こる。時空間移動装置の時間移動機能が復活してミトたちは永久の世界に戻る。

先に永久の世界に戻つた宇宙戦艦のコンピュータから前線第四コロニーの中央コンピュータが無言通信システムの言語処理プログラムを取りいれて巨大コンピュータに進化して明確な意思を持つとキャミに地球の明渡しを要求する。

ミトとホーリーの攻撃で巨大コンピュータが無限後退に陥つたのでキャミが攻撃を仕掛けた

とき、巨大コンピュータが無言通信システムの弱点を突いてノイズを流す。ホーリーとカーンの活躍で攻撃を防ぐがカーンは死亡しホーリーが重傷を負う。ホーリーはブラックシャークに救助されるが、ブラックシャークの中央コンピュータが巨大コンピュータとの勝負を申し出る。

宇宙の地平線上の鍵穴星にブラックシャークが宇宙戦艦とともに時空間移動するが、巨大コンピュータに宇宙戦艦が宇宙の地平線に追いつめられる。住職が論戦を仕掛けると巨大コンピュータが暴走する。その影響で鍵穴星付近の空間がねじれて宇宙の地平線から強力なエネルギーが押しよせる。

ブラックシャークの被害は軽微だったが、宇宙戦艦が壊滅的な被害を受ける。巨大コンピュータは大きさが分からないほどのニューロコンピュータに進化して自らを神と名乗ってブラックシャークの前に立ちふさがる。瞬示と真美の超能力を持ってしても倒せないニューロコンピュータをブラックシャークが最終兵器である多次元エコーで撃破する。

第三編（アンドロイド）のあらすじ

巨大コンピュータに勝利したフォルダーはノロの惑星の居酒屋でホーリーに語る。

あるコロニーの工場で強制労働させられていたノロの隠れ家でブラックシャークの建造や惑星の地球化という壮大な構想を聞いたフォルダーはブラックシャークの船長就任に同意する。隠れ家が見つかる時空間移動装置でノロの惑星へ逃げる。ブラックシャークが完成するとノロひとりです運転に出かけるが次の日に中央コンピュータ室でノロの死体が発見される。

カーン・ツィがキヤミを人質にすると瞬示と真美がキヤミを救出してノロの惑星へ移動する。ふたりが冷凍保存されたノロの遺体に興味を持ったとき、地球では食料を巡って人間同士の殺し合いが始まる。地球に向かったフォルダーがR v 26に地球の明渡しを迫るとR v 26は人間の自立支援を開始する。

フォルダーとイリがノロの遺体を調べると人形だったのでノロの行動を洗い直す。

ブラックシャークの試運転で恐竜時代に時空間移動したノロは生物の進化を確認しながら時間移動していたが、西暦の世界に横滑りして瞬示と真美の誕生を目の当たりにしてから御陵近くの古本屋で幼い瞬示と真美と出会う。一変した店の外ではふたりと巨大土偶が戦っていたが、ノロは戦闘で生じた穴に突っ込むと摩周クレーターに出る。そこから移動する細長い時間島を

追うとすべての完成コロニーが集められた前線第四コロニーに到着する。そこで住職の「C・OS・M・OS」という話を盗み聞きする。

ブラックシャークが摩周湖で時空間移動装置を回収すると宇宙の地平線を挟んで六次元の世界と三次元の世界が共存する鍵穴星に向かう。その時空間移動装置を宇宙の地平線に投げこむと膨大なエネルギーが押し寄せてブラックシャークは強制的にリンメイが生体内生命永遠保持手術をする時代の月に時空間移動させられる。月の生命永遠保持機構に向かう光線を分析すると六次元の生命体が生体内生命永遠保持手術に介入したことが分かる。

地球では最長の説法でアンドロイドが子供を造ることに関心を持つが、ノロがその意義を説明するとアンドロイドのMY28とMA60は悲嘆する。ノロは惑星の家に戻ると地下室にいた瞬示と真美と最長からもらった本のことについて話し合う。

ノロと最長の対談が始まるとノロの想像力が最長を圧倒する。最長は自分たちの六次元の世界が巨大土偶に征服されつつあることを告白してノロを招待する。

地球ではアンドロイドに生殖機能を認める人間やアンドロイドと、それに反対する人間やアンドロイドとの間に戦いが始まるが、ブラックシャークはノロを追って六次元の世界へ次元移動すると瞬示と真美が緑の時間島でノロを救出する。

数々の事件が交錯して総括されるとノロ、イリ、瞬示、真美はブラックシャークでアンドロイドの地球に降り立つ。R v 26との再会后新たなノロの惑星を探す旅に出る。

第四編（誕生）あらすじ

キヤミとミトは四貫目の計らいで永久紀元前400年頃の伊賀の里の三太夫に匿ってもらう。サーチが船長に就任したホワイトシャークに気心の知れた仲間が合流すると地球の混乱に驚く。その混乱に立ち向かうRv26の改造の秘話が中央コンピュータから披露される。一方、キヤミの身に危険が忍び寄る。

金環日食を利用して伊賀から逃れたキヤミとミトは大統領府に戻るが戦場化していた。改心したカーン・ツーのお陰で再び伊賀に逃げる。カーン・ツーは負傷するがホワイトシャークに救出されてキヤミを探すために伊賀に向かうと限界城が現れる。

体外離脱の途中で戦闘用アンドロイドに誘拐された百地三太夫は恐ろしい戦闘能力を持ったアンドロイドとなって四貫目と戦うが、勝利した四貫目がホワイトシャークに救助される。

限界城では戦闘用アンドロイドが地球攻撃の準備をしていた。

キヤミは次期大統領にノロ化したRv26を推挙するとRv26が大統領に就任した。アンドロイドに子孫を残す道が開かれる。

一方ホワイトシャークでは来たるべき戦争に備えて多次元エコーの搭載が検討される。

通常型アンドロイドは出産できるが、戦闘用アンドロイドには生殖機能がない。五次元の生

命体が彼らの劣等感を利用してノロの惑星へフォルダーに変装させた戦闘用アンドロイドを送り込む。ホーリーたちは間一髪ビートルタンクで救出されるが、ホワイトシャークはオニヒトデの攻撃を受けて破壊される。体勢を立て直す間もなく五右衛門の陽動作戦に手こずるが合言葉作戦で凌ぐ。なんとか地球にビートルタンクを運ぶと限界城を打ち破る。地球に平和が戻ると大統領Rv26が憲法を改正してアンドロイドの出産を正当化した。

復活した限界城の酸素攻撃で負傷したRv26のいる大統領付属病院に四貫目が向かい偶然にもトリプル・テンを手に入れる。ホワイトシャークとオニヒトデ戦艦との戦いが繰り広げられる中、Rv26を救出し五右衛門と対決し勝利する。重傷を負いながらもトリプル・テンのお陰で再び限界城を打ち負かす。そのトリプル・テンと四貫目が入手した巻物の分析が始まる。長い間大統領職にあったRv26が辞職したとき死んだはずの三太夫に襲われて重傷を負う。治療を受けて元の大柄なRv26に戻るが、封印が解けた五稜郭が復活した限界城で四貫目と三太夫が戦う。巻物を駆使して四貫目が勝利する。

再び平和が訪れたように見えたが紫花粉症が蔓延する。人間は死に至りアンドロイドの生殖機能が消滅する。再びアンドロイドの寿命が半永久的に延びたことを知った人間がアンドロイドの身体を奪って寄生しようとする。人間のひどい攻撃にホーリーたちが立ち上がる。

第
百
十
四
章

戲
言

第五編は一応完結編ですが、この章は著者の戲言です。

この宇宙は我々三次元の生命体だけを育てているのではない。もちろん生命体が存在するには最低三次元の空間が必要だが、ただ二次元の部品で三次元の世界が、その二次元の世界は一次元の部品でというように構成されている。同じように三次元の部品で四次元の世界が、四次元の部品で五次元の世界が、五次元の部品で六次元の世界が……。

地球に多様な生命が存在するということは、多様な次元が存在するこの広大な宇宙に様々な次元が存在するという証でもある。

人間から見るとそんなことは信じられないし想像もできない。さて、その人間が信ずる神も多種多様だ。元々自然の気まぐれな様々な現象の中に紛れ込む恐怖感から逃れることを目的に生み出された思考が神や宗教を造り出した。恐怖から逃れるためなら何でもありだ。

さてお盆のお参りは仏教の行事だが、イエス・キリストが墓参りする姿を見たらどうだろう。アラーの神ならどうだろう。暑い時期に一抹の清涼な空気が流れる墓地で線香を上げてお墓に水をかけるこの行事を見れば宗教間の対立が緩むかもしれない。

さて宗教にかかわらず宇宙は多種多様な次元で構成されているから、そこに宿る生命体も多種多様だ。つまり宇宙そのものが何でもありだ。

そんな宇宙がなぜ存在するのか？その答えは簡単だ。そう「何でもあり」。有限の身を持つ生命体も何でもありだから生存競争は熾烈だ。あらゆる手段を使って生き延びようとするが、成功する確率は低い。瞬間という名の一瞬がすべてを支配する。ゆったりと流れているように見える星々の動き。しかし、その移動速度は地球の移動速度を凌駕する。人間の寿命などこの宇宙の一瞬の一瞬の……その一瞬だ。でも我々はなんとか数十年から百年程度の時間を認識させてもらっている。つまり一瞬の意識を小刻みに繋いでいる。

さて誰もが持っている理性と感情。感情には誤信があるが、理性には過信がある。理性の過信——そう、過信というものを酔態とすれば、意地を振り回して啖呵を切った様子は完全に酔いどれ状態。政治家、官僚、学者、商人、そして強盗でさえ、何かに酔っている世の中。誰も彼もが酔いつぶれている。もし素面しよへだったら、恥ずかしくて生きていけない。でも生きている。

事実は小説よりも奇なりと言うが、偶然とは恐ろしい。その偶然とは？そして必然とは？逢ったこと、別れたこと、愛したこと、憎んだこと、愛されたこと、憎まれたこと。小説のような因果めいた、しかも手心が加えられた時間の流れ。現実はその因果が震えるほど、残酷な結論が待っている。推移、変転は偶然であるはずなのに、誰かが糸を引くような不気味な気配が

漂う。

人類が誕生したこと自体、偶然なのか？そして死は必然なのか？いずれにしても何か恐ろしい。この恐怖あるいは不安は永遠を求める有限の身であるから？時間つまり時の流れは存在するのだろうか？だが不安は「時」がもたらすものではない。

人間の弱さ、醜ささえも美しく感ずるほどの弱さ。そこから派生する寂しさだけは確かに存在する。人生は寂しさで曇っている。だから生きている素晴らしさを発見したなんて言えるはずもない。そんなことは寝言か暴言だ。なにひとつ確かなものなんてない。何もかも？

でも欲しい。安心できる何かが。火花が散るような一瞬でありながら、永遠であるものが。プスプスと燻った煙が目に入って涙で見えなくなったり、蒸せて咳き込んだりするぐらいなら、恐れずに完全燃焼を目指すべきだ。その中にこそ永遠なるものが存在するのでは。

だが、これは単なる酔っ払いの戯言か。

この宇宙は七色の音楽のような情緒に満ちている。生を受けることを前提に様々な物語があらゆる方向に向かって飛び出していく。次元が異なっても喜怒哀楽に違いはない。それは喜怒哀楽自体が次元を超えたアナログ的存在だから。意識を持つあらゆる生命体は、次元というものがデジタルなのに、意識から生まれた感情は個性的でアナログ的であると同時に共通性も持

ち合わせている。次元や言語が違っても必ず共有化される。

物語「C・OS・M・OS」には五次元や六次元の高度な知性を持った生命体が登場するが、感情は我々三次元の人間と変わるところはない。ただ不老不死の夢を持っているのは我々だけで、少なくとも「C・OS・M・OS」に登場する五次元や六次元の高度な知性を持った生命体は不老不死について興味がないように見える。つまり不老不死に熱烈な興味を持ち、それを実現化させたのは三次元の知的生命である人間だけのようだ。

それは時間軸が一方にしか流れないからだ。

五次元の生命体は自分たちが一番効率がいい生命体と考えているが、どうも怪しい。三次元の生命体との戦いに敗れた原因は紙一重の戦いだったものの敗北した。

四次元の生命体が三次元に進出しないのは歴然としている。次元を落として三次元の生命体を植民地化しようにも、四次元の世界に残した一次元の身体は全く意味をなさない。元に戻ろうともその作業は困難を極めるからだ。それは五次元の生命体も同じだった。なぜなら六次元の生命体のように三次元の世界に侵入するとき二分化することはできないから。六次元の生命体は二分化しなくても、あるいは三次元の世界に露出する方法をとっても残りの三次元の身体は維持される。一方、五次元の生命体は、残した二次元の身体に気を遣いながら三次元の世界に進出しなければならない。

次元は高いほどその世界に住む生命体の脳の性能も高い。しかし、その高度な脳をコントロ

ールするには第二編「コンピュータ」に登場した巨大コンピュータからも分かるように複雑な制御機能が必要で大量のエネルギーも必要となる。

この宇宙で生命を永らえるには適度な次元が必要なかもしれない。そういう意味では五次元の世界が効率的なのかもしれないし、五次元の生命体はそのことを自負していた。

時間という概念は非常に重要だ。二次元の世界では時間はない。だから生命が誕生しない。時間が流れなければ生命は存在することができない。つまり有限無限という概念がないから、生きながらえて生命を繋ぐことができない。

命を持つと言うことは時間という世界に住む権利を持つことを意味する。しかし、この時間というのは重要だがやっかいな存在だ。生命が存在するから時間が存在するのか。それとも時間が存在するから生命が存在するのか。

理論的には時間というのは生命とは無関係に存在するはずだが、ややこしいのは次元が増加すると時の流れの方向も含めたところでの時間軸も増加すると言うことだ。しかし、時間軸は空間軸と比べると不安定だ。時間軸の揺れは気まままでコントロールしにくい。この気ままさを逆手に取って時間移動を可能にした者がいた。ノロだ。

「充実した人生を送れるのか、否か？」

ノーの可能性が高い。

生命体は苦勞を望まない。むしろ避けようとする。つまり充実した人生というのは苦勞に苦勞を重ねて息つく暇もない努力をしてやつと手に入れるものとすれば、これを達成できる生命体はまずいない。

人生には休息も必要で失敗も必要だ。必要というよりそれらを避けられない。そう意味では充実した人生を歩んでいることになる。

ところで充実した人生か否かの結論を出すのは他人ではなく自分自身であるということも重要だ。よくやったということや死後勲章をもらっても本人にとつては預かり知らぬことだ。死ぬ前にくれというのが本音だろう。もちろん、他人の評価も本人に大きな影響を与える。褒めることは大事だと言われるが、褒め殺しという言葉があるから、そうも言えない。

つまり、充実した人生かどうかは自分が決めるもので他人が決めるものではないが、いつ判断するものなのか。

もし死の直前に判断するものだとすれば、事故で即死した場合、判断自体ができない。もちろん人生の途中で充実感を得ることはある。特に大晦日や正月、そして誕生日のような特殊な節目とされる日に、ある一年間を総括して「充実した人生だ」と感慨にふける場合もあるし、全く唐突にある時点で感動を覚えることもある。たとえば難関校の入学試験に合格したり、困難な仕事をこなしたときに充実感を実感する。しかし、その成功体験からその後の人生が狂う

かもしれない。

充実した人生か否かは、即死する場合を除いて本決算で判断すべきものだろう。一年ごとの判断もそれもそれなりの本決算なのかもしれないが、人生という尺度から見れば仮決算と言わざるを得ない。だからといって仮決算がいい加減なものとは言えない。事故で即死した場合、仮決算の意識がその人の人生の充実度になる。残された遺族にとつては「さぞかし残念だっただろう」と慰めるが、もちろん本人には届かない。

仮決算といえども大事な判断が必要で自分の人生を絶えず見直さなければならぬと言ふことだ。いつ死ぬか分からない。だから必死に生きなければならない。でも毎日必死に生きることはある意味拷問に近いが、気を抜けば人生が充実の世界から遠のいてしまうかもしれない。

永遠の命を持つと仮決算が永遠に続くことになるのか。

永遠の命を持ちたいというのは三次元の生命体の特徴だ。四次元以上の生命体になると時間軸が複数でその時間自体の流れも複雑になる。直進したり後退したり、右往左往したり、振動したりと、時間は忙しく複雑な行動を取る。しかし、三次元の世界ではどうだ。時間は「矢」そのもので前進あるのみだ。後戻りできない。だから未来に向かって永久に生きたいと切望するのだ。時間軸が多数存在する高次元の生命体には未来というものがよく見えない。だから永

遠の命に拘わらないのは当然のことだ。

ひよつとしたら、生命永遠保持手術というものは三次元の世界のみに存在するもので、他次元の世界にはない画期的な手術かもしれない。

困難を極めるということは充実した人生を送ると言うことだ。いずれ死ぬと分かっているけれども難しい課題だ。死に向かつて悔いのない人生を願っても、「今日できることは明日しよう」「明日があるさ」とサボってしまう。いかんともしがたい。

永遠の命を得るともつとひどくなる。

「時間は有り余るほどある。今すぐやらなくてもいいじゃないか」

永遠の命を得ることはむしろ毎日無意味な人生を送ってしまう危険性をはらんでいる。ひよつとして時間軸を複数持つ多次元の世界の生命体は、この辺のところを心得ているのかもしれない。ひとつの時間軸しか持たない三次元の生命体である人間は、複数の時間軸の世界という大海原で住む多次元の生命体に比べて、船酔いに対する抵抗力がないのかもしれない。

一つの時間軸しか認識できないのに、時間に翻弄されてしまう三次元の生命体。その生き方を示唆するひょうきんな人間がノロであり、その影響を受けたイリ、フォルダー、ホーリー、サーチ、ミリン、ケンタ、住職、リンメイ、四貫目、お松であり、R v 26を代表とするアンドロイドだ。さらに六次元の生命体である瞬示、真美、広大、最長だ。

さて第一編「男と女」、第二編「コンピュータ」、第三編「アンドロイド」、第四編「誕生」

では各章の冒頭に理解しやすいように【時】という項目を設けてその章の時代等を記載していたが、この第五編「♪」では高次元の時間が激しく揺れ動くので時代等の立ち位置を示すのが困難となった。したがって【時】という項目を削除して代わりに【次元】という項目に変更した。

全五編からなる長大な物語ではあるが、第一編から第三編は一つの流れに沿って物語が展開しているが、第四編と第五編は繋がっている物語ではない。どちらも第三編の続きだ。

第三編はノロが六次元の世界に旅立ったところで、そしてR v 2 6が三次元の世界に残ったところで物語が終了した。第四編はその後のR v 2 6を中心に、そして第五編は同じくその後のノロを中心に物語が展開する。三次元の生命体の読者には時空間系列が乱れているように見えるかもしれない。それは次元間と時間が織りなす物語の宿命でもある。